

別記様式第 6 号（第 16 条第 3 項，第 25 条第 3 項関係）

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	金藤亜希子
学位授与の条件	学位規則第 4 条第① 2 項該当		
論文題目			
新任保健師の職業的アイデンティティの形成を促す教育プログラムの開発			
論文審査担当者			
主査	教授 宮下 美香	印	
審査委員	教授 森山 美知子		
審査委員	教授 折山 早苗		
<p>〔論文審査の結果の要旨〕</p> <p>自治体に勤務する保健師（以下、保健師）は、住民の健康の保持増進に関わる専門職である。職務は福祉・医療へと拡大し、虐待や貧困など、多領域の調整が必要な困難事例に遭遇することもある。そのため、保健師は新任期から専門職であることを意識する必要がある。基礎的能力を獲得するための自己研鑽が要求される。</p> <p>このような意識の動機づけには、職業的アイデンティティ（professional identity 以下、PI）が重要な役割を果たす。専門職であること意識した PI は、職務遂行の基盤となる認識であり、PI の確立は職務を全うする上で必要不可欠である。しかしながら、保健師は多職種で構成されるチームの中での活動が多く、保健師独自の活動の成果や専門性の把握が困難となりやすく、また、同じ職能の上司や同僚が同一職場にいないなどの理由から、指導を受ける場が少なく、PI を確立し難い状況にある。専門職としての職務を全うするうえで、PI の確立は必要不可欠であるが、一方で保健師の PI の構造はこれまで十分に明らかにされておらず、保健師の PI 形成を目的とした教育プログラムもみられない。そこで本研究では、人材育成の試みとして、新任保健師の PI 形成を促進する教育プログラムを開発し、有効性を検証することを目的とした。</p> <p>研究 1 では、新任保健師 7 名を対象として、PI の形成状況を半構成的面接調査で明らかにした。結果、新任保健師の PI について、6 つの要素【力量不足の自覚】【役割遂行への責任感】【他者からの評価による存在価値の確認】【活動の振り返りから得た自信】【職業への誇り】【目標のある自己研鑽】が抽出された。中堅期以降の保健師との比較により、保健師の PI を表現するためには、職業への適応感と他職種との連携意識の要素を追加する必要性が明らかとなった。</p> <p>研究 2 では、保健師の PI の概念構造を質問紙調査によって明らかにした。保健師 670 名のうち 314 名の有効回答から、探索的因子分析により 3 因子【技術への自信】【成長志向】【職業への信頼】を得た。経験年数別の PI の比較を、分析により得られた項目案の因子負荷量を用いて行った。新任保健師は、中堅期以降の保健師よりも【技術への自信】（$p<0.001$）【職業への信頼】（$p<0.001$）において因子負荷量が有意に低かった。2 つの調査から、新任保健師の PI 形成に資する教育プログラムに取り込む PI 形成の促進要素は、①保健師活動を自ら振り返ること、②保健師としての思考や価値観について他者から直接フィードバックを得ること、③複数の保健師との関わりの中で保健師としての視点や意見を承認される体験を得ること、そして④明確な目標をもって積極的自己研鑽を行うこと、という知見を得た。</p> <p>研究 3 では、ADDIE モデル（Analysis Design Development implementation Evaluation）を使用して教育プログラムを作成した。新任保健師の特徴を整理し、研究 2 で明らかとなった PI 構造 3 因子を教育目標に設定した。日本看護協会の事例検討会の枠組みに基づき、事例を教材とする受講者同士の相互学習をファシリテーターがコーチングの技法を用いてサポートする方法とした。</p> <p>研究 4 は、新任保健師を対象に、上記教育プログラムの PI の変化に対する有効性について</p>			

て、e ラーニング教育を行う介入群、従来型教育である集合教育を行う対照群とした無作為化比較試験により検討を行った。適格基準を満たした対象者の中から研究協力に同意を得た 28 名を 2 群に無作為割付し、教育プログラムを展開した。結果、PI 得点の変化は 2 群間に統計学的に有意な差を認めなかった。12 項目全体 ($p=0.008$)、【技術への自負】 ($p=0.005$)、【職業への信頼】 ($p=0.047$) の得点に、介入による経時的変化を認めた。3 つの教育目標の達成度は、いずれも集合研修群が高い割合を示した。教育プログラムへの満足度は、集合研修群が e ラーニング群よりも有意に高かった ($p=0.001$)。本研究により、e ラーニングによるプログラムの課題として、学習意欲の継続と教育目標達成に向けた教育の工夫の必要性が推察された。また、開発した教育プログラムは PI の形成促進に貢献する可能性が窺えた。

以上、本結果は、作成した教育プログラムが新任保健師の PI 形成の促進に有効である可能性を示唆するものである。したがって、本研究は保健師の育成に貢献するものとして高く評価される。よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。

最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博士（ 看護学 ）	氏名	金藤亜希子
学 位 授 与 の 条 件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目			
新任保健師の職業的アイデンティティの形成を促す教育プログラムの開発			
最終試験担当者			
主 査	教授 宮下 美香	印	
審査委員	教授 森山 美知子		
審査委員	教授 折山 早苗		
<p>〔最終試験の結果の要旨〕</p> <p style="text-align: center;">判 定 合 格</p> <p>上記 3 名の審査委員会委員全員が出席のうえ、平成 29 年 12 月 14 日の第 147 回広島大学保健学集談会及び平成 29 年 12 月 14 日本委員会において最終試験を行い、主として次の試問を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健師の職業的アイデンティティの概念構造 2 職業的アイデンティティに対する介入の有効性の検討 3 職業的アイデンティティの形成を促進するための教育方法 4 教育プログラムの妥当性 5 職業的アイデンティティの形成を促進する教育プログラムの課題 <p>これらに対して極めて適切な解答をなし、本委員会が本人の学位申請論文の内容及び関係事項に関する本人の学識について試験した結果、全員一致していずれも学位を授与するに必要な学識を有するものと認めた。</p>			